

夜間中学の今後

土屋千尋（神奈川・横浜の夜間中学を考える会）

nrr39779@nifty.com

【要約】

本稿は二部から構成される。第一部では、公立の夜間中学において、どのようなひとがまなんでいるのか、産経新聞大阪本社による「夜間中学はいま」にもとづいて、(1)戦争や貧困、差別などによる義務教育未修了者 (2)不登校経験者 (3)外国につながるひと の三つにわけて、それぞれの入学経緯からのべる。第二部では、公立の夜間中学の生徒のおおおくをしめる(3)外国につながるひと に対する日本語教育のあり方について考察する。現時点では、教科の教諭が日本語教育の実習を経験した上で、日本語をおしえることを提案した。

0. はじめに

夜間中学とは、市町村や都道府県が設置する中学校において、夜の時間帯等に授業がおこなわれる公立中学校のことをいう。これとは別に、全国にはボランティアが自分たちで運営し、おしえる自主夜間中学があるが、本稿では、公立の夜間中学についてのべる（以下、夜間中学）。

ながらく、夜間中学は「なくてはならない」ものであるといわれていたが、一方で「あってはならない」ものとされ、学校教育法でみとめられていなかった。1966年11月、行政管理庁は、夜間中学は法的にみとめられておらず、違法な年少労働を容認することにむすびつくこと等から、文部省に対して夜間中学の早期廃止をもとめる勧告をした。その直後から、全国の夜間中学関係者等のねばりつよい運動があり、2016年12月7日に「義務教育の段階における普通教育に相当する教育の機会の確保等に関する法律」が成立した。これにより、夜間中学の存在はようやく法的根拠をもつようになった。

政府は現在、全都道府県と全政令指定都市にすくなくとも1校以上の夜間中学の設置を義務づけている。この結果、夜間中学は2019年8都府県31校設置であったものが、文部科学省によると、2023年10月時点では計17都道府県44校設置となった。2024年にはさらにあたらしく8府県9校、2025年度には6県7校設置の予定である。また、長野県、長崎県も新設を検討中である。

さて、本稿は二部から構成される。第一部では、夜間中学でまなんでいる人々の入学した理由をあげる。第二部では、夜間中学にまなぶいわゆるニューカマーとよばれるひとにたいする日本語教育をきちんとおこなうために、教師はどうすべきかをかんがえる。

第一部

1. 夜間中学でまなぶ人々

夜間中学ではどのようなひとがまなんでいるだろうか。産経新聞大阪本社 夜間中学取材班がまとめた「夜間中学はいま-『こんばんは』からはじまる中学校があります」や各夜間中学の募集要項をみると、夜間中学でまなぶ人々はおおまかにいって、三つのグループにわけられる。(1)戦争や貧困、差別

などによる義務教育未修了者、(2)不登校経験者、(3)外国につながるひと、である。以下、実際どのようなひとがまなんでいるか、夜間中学入学のきっかけを中心に具体的な例を産経新聞大阪本社の取材記事からとりあげる。筆者が記事から各グループ4-5名の例をえらび、内容を要約。氏名はイニシャルであらわす。

1.1 戦争や貧困、差別などによる義務教育未修了者

○M.T.さん 女性 77歳 戦災孤児だった。物心ついた頃には両親はおらず、終戦時は4歳だったらしい。近所の子どもの体格と比較して「だいたいこのくらいの年頃」と生年月日をきめられたので、本当の年齢はわからない。6歳の頃から子守りをはじめ、他人の家を転々とわたりあるいた。学校にいきたかった。よみかきができないことで味わったつらさはかぞえきれない。結婚し、子どもが生まれ、ずっとはたらきつづけたが、よみかきが必要な事務仕事はさけた。そして、年齢に関係なくまなぶ夜間中学にあこがれつづけた。入学できたのは、定年をむかえた後の61歳だった。

○N.T.さん 男性 83歳 山奥の炭焼き小屋でくらす。家には電気も水道もなかった。午前5時に家をでて、小学校まであるいて3時間。冬場はかよえず、1年生の半分は欠席した。小学2年の時「泥棒」よばわりされて、いじめられ、それ以来学校にいかなくなる。12歳で家をでて、はたらいた。自分の名前も住所もかけない。その分、朝はやくから夜おそくまではたらきづめだった。30代なかば、夜間中学で勉強するようになった。

○A.K.さん 女性 77歳 物心ついたときには母親は病気でなくなっていた。父親は酒ずきでよいつぶれて道でねているようなひとだった。本当に貧乏だった。ちいさな頃から他家の子守をし、15歳の時、大阪市内ですみこみの子守をすることになった。学校にはほとんどかよえないまま大人になった。結婚して3人の子どもにめぐまれたが、よみかきができないために自信がもてず、いつもめだたないように陰にかくれていた。ある日近所のひととはなして、夜間中学のことをしり、75歳で入学した。

○M.T.さん 女性 79歳 小学4年の時、義父が病にたおれて半身不随になった。M.T.さんはたべていくために内職におわれ、ほとんど学校にかよえなくなる。中学2年の時には、学校の目の前にある酒屋で、すみこみではたらいた。結婚して4人の子どもにめぐまれ、68歳まではたらいた。夜間中学の生徒募集を市の広報でしる。それは家のちかくにあったが、授業についていけるか不安で、3年間なやみつづけた。ついに勇気をふりしぼって見学にいき、その翌日入学した。70歳になっていた。

○K.M.さん 男性 77歳 父は戦病死した。母は遺族年金をもらえることもしらず、5人の子どもをかかえて必死にはたらいた。まずしいながらも、あたり前に生活ができていた。中学入学間もない6月の朝礼の時だった。担任の先生に職員室にくるようにマイクでよびだされた。職員室で身におぼえのないことを一方的にいわれ、どなられた。「僕ではない」といったが無視され、「片親の奴はあかん」「片親の奴は嘘つきやな」ということばをはかれた。その時はじめて「片親」は差別されるのだと気づいた。先生たちは片親についてわらいながら話をしていた。K.M.さんはくやしく、みじめで、なさげなく、母までもさげすみ、馬鹿にされたとおもった。それ以来、先生をにくみ、学校がきらいになり、まともに授業をうけずに中学校を卒業した。その後ははたらきづめだったが、ずっと高校進学をあこがれがあり、高校にいくための学力をつけるために2019年夜間中学に入学した。

敗戦後1947年、労働に従事して一家をささえていた長期欠席児童生徒のために、教師たちが夜間に

児童生徒を教育する夜間学級を設置したのが夜間中学のはじまりである。1955年頃には設置の中学校は80校をこえた。夜間中学が設置されてもそれらの情報が必要としているひとにとどくとはかぎらなかった。義務教育未修了のまま大人になり、高齢になってから、夜間中学にたどりついたひともおおかただったのである。

また、敗戦後しばらくは、教科書は有償だった。1961年教科書が無償で配付するための運動が高知市長浜で母親らによってはじまった。当時、教科書が有償で、かえなかった家庭もあったのである。教科書無償化の運動については、国会でもとりあげられ、1963年に義務教育諸学校の教科書無償化の法律が成立した。翌年から順次施行、1969年全小中学生への無償給与となった。教科書が無償になっても、学校には給食費、教材費などをおさめなければならない。これらを捻出するというのは、いきっていくのに精一杯な家庭では、大変な困難であったのである。

1.2 不登校経験者

○O.Y.さん 女性 32歳 小学1年の冬、両親が離婚、父は仕事におわれ、姉たちも自分のことで精一杯。朝おこしてくれるひとはおらず、生活リズムがくずれ、段々不登校になっていった。たまたま教室にはいっても、授業はわからず、学校からさらに足がとおのいた。高学年になると、級友から無視されるといういじめにもあった。「居場所がなかった」と当時をふりかえる。学校や勉強と縁どおいまま大人になった。子どもが3歳の時、発達障害のひとつ、自閉症スペクトラムと診断された。本をよんで必死に勉強しようとしても、わからない漢字がおおく、まなびなおしをとおもい、夜間中学に入学した。

○O.N.さん 女性 45歳 おとなしくてひっこみ思案の子どもだったO.N.さんは、小学校でいじめの標的にされた。中学校では、他の小学校出身の生徒たちもいじめにくわわった。小学生の頃からやすみがちであったが、中学入学から2、3か月でかよえなくなった。家からもでず、ひきこもりになった。ひきこもりは学齢をすぎてもつづき、10年以上におよんだ。24歳の頃、甲状腺の機能が低下する病気になり、そのことがきっかけでひきこもりからぬけだすようになった。しかし、O.N.さんはほとんどまなんでおらず、計算ができず、簡単な漢字もかけない。誰にもいえないままながい年月がすぎた。おもいきって友人にうちあけると、友人は夜間中学をすすめてくれた。そして、2017年夜間中学生となった。

○K.K.さん 男性 17歳 学校の先生と衝突することがおおかったり、友達に名前をからかわれたりして、学校にはほとんどいってない。中学生になると、暴力をとまなういじめがはじまった。1年生2学期から登校しなくなった。卒業をひかえて進路をきめる時、担任の先生から定時制や通信制の高校、夜間中学を紹介された。一からまなべるといふ夜間中学にひかれ、2020年3月昼間の中学を卒業し、新型コロナの感染拡大による臨時休校があけた6月から夜間中学にかよいはじめた。

○T.K.さん 女性 26歳 両親はT.K.さんが5歳の頃離婚、そして、7歳の時、母は脳梗塞でたおれた。その病気の後遺症で半身麻痺となり、年々悪化していった。T.K.さんは小学4年のはじめの頃までは、どうにか学校へかよえていたが、11-12歳ぐらいの時から、母のかわりに家事を本格的にしたり、学校にかよえなくなった。18歳の時、母がなくなった。その10日後、夜間中学へ入学した。

○I.T.さん 男性 48歳 物心ついた時には児童養護施設にいた。両親のもとにもどると、母は朝から晩までいそがしくはたらいていたが、父は仕事もせず酒ばかりのんでいた。小学校には1年おくれで入学。酒乱の父に暴力をふるわれるような環境では、まともに通学できない。授業にもついてい

けなかった。中学3年の時になくなった父の借金返済のためにいくつも仕事をかけもちし、必死ではたらいた。履歴書をまともにつけず母にかいてもらっていた。30代後半、夜間中学の存在をしり、見学にいったが、当時はI.T.さんのように中学校を卒業した人(=形式卒業者、十分な教育をうけられないまま、中学校を卒業せざるをえなかったひとたち)は夜間中学入学がみとめられておらず入学できなかった。しかし数年後形式卒業者も夜間中学入学がみとめられるようになった。これによりI.T.さんは、45歳で念願の学校生活をふたたびおくれるようになった。

文部科学省は「2022年度の小中学生における不登校児童生徒数は29万9048人。前年度から5万4108人(22.1%)増加し、過去最多となった」と公表した。年度間に30日以上登校しなかった児童生徒を長期欠席児童生徒とよぶが、このうち、何らかの心理的、情緒的、身体的、あるいは社会的要因・背景により、児童生徒が登校しない、あるいはしたくともできない状況にある者(ただし、「病気」や「経済的理由」、「新型コロナウイルスの感染回避」による者をのぞく)を不登校児童生徒とするとなっている。また、2015年までは、病気や不登校から学校にいけなかったり、授業をうけられなかったりして、十分に義務教育をうけられなかったひとが卒業証書をもってしまう(=形式卒業)と、夜間中学入学の希望をしてもうけいられなかったが、2015年7月30日づけで入学をみとめるという通知が文部科学省より全国の教育長にだされた。

さらに、文部科学省は2019年10月25日「不登校児童生徒への支援のあり方について」と題して、学齢期であっても本人の希望を尊重した上で、不登校特例校、夜間中学のうけいれなど、様々な関係機関を活用し社会的自立の支援をおこなうことという通知をだした。2022年4月に開校した香川県三豊市立高瀬夜間中学は不登校特例校の指定を全国の夜間中学の中ではじめてうけ、2022年10月に中学3年の男子生徒が転入し、2023年3月に卒業証書をうけとった。2023年5月には中学2年の女子生徒が転入した。

また、事例にあげたT.K.さんのように、本来、大人がになうべき家事や家族の世話などを日常におこなっている18歳未満の子どもを「ヤングケアラー」とよぶ。2021年厚生労働省の調査結果では、中学生17人に1人の割合でヤングケアラーがいると公表されている。

1.3 外国につながるひと

1.3.1 在日韓国・朝鮮

○K.S.さん 女性 93歳 韓国チェジュ島出身。病気でねたきりの母とのくらしはまずしく、藁ぶき屋根の家には水道も電気もない。戦争が始まると、毎日竹槍訓練や道の整備をさせられ、生活は一層きびしくなった。韓国で学校にいったのは小学4年まで。女は学校へいかなくていいと、あたりまえのようにかんがえられていた時代だった。戦後、結婚。その後、突然日本へわたった夫をおいかけて、大阪にくる。5人の子どもをそだてる。現在、孫13人曾孫13人。夜間中学の生徒募集のチラシをみて、夜間中学に入学。9年間まなぶ。

○P.O.さん 女性 80歳 大阪でうまれそだった在日2世のPさんは、70歳をすぎてから夜間中学に入学した。両親は戦前、韓国からわたってきた。6人きょうだいの4番目。6歳の時に大阪大空襲にあい、家が全焼した。その後長屋にくらし、9歳の時おくれて小学校に入学。4年になって、給食代ははらえなくなり、学校にいくたび、先生にみんなの前で「給食代はもってきたか」といわれつけ、はずかしく、つらくて、学校にいかなかった。それから一生懸命にはたらいた。二十歳で結

婚し、3人の子どもをそだてた。娘に夜間中学の入学をすすめられ、数年まよったが、71歳の時入学した。

○T.E.さん 女性 81歳 Tさんは日本で7人きょうだいの6番目にうまれた在日2世。5歳の時、母がなくなり、15歳上の長兄夫婦が親がわりとなってそだててくれたが、生活はまずしかった。朝鮮学校から日本の学校へとうつたが、日本語ははなせてもよみかきはできない。給食代をはらえず、給食の時間はいつも運動場であそんでいた。中学校に入学したが、はたらきはじめてので、2学期頃からかよえなくなった。22歳で結婚し、5人の子どもにめぐまれた。韓国惣菜店をいとなみ、その常連客から夜間中学のことをしった。2017年3月に店をしめ、4月から夜間中学に入学した。

1.3.2 中国帰国者

○C.R.さん 女性 72歳 C.R.さんは、中国南京の診療所で医師をしていた日本人の父親と中国人の母親の間にうまれた。父は終戦を機に、C.S.さんをみごもっていた母親に「むかえにくる」といいのこして日本に帰国した。国交正常化をへた1979年、父がやっとのことで中国をおとずれた。日本にこないかといわれたが、その時はかなわなかった。父の死後、50歳をすぎてから家族と日本にきた。最初は日本語がわからず、何もかも不安だった。夜間中学には一足はやく来日した兄の紹介ではいった。

○N.S.さん 女性 74歳 中国人のN.S.さんは1987年、中国残留孤児の夫と二人の息子とともに日本にきた。中国・大連で6人きょうだいの末っ子として生まれ、生活苦で中学2年の頃から学校にいけなくなり、はたらきながら病気の両親の世話をした。日本でのくらしは、日本語が必要な場面はすべて夫にまかせていた。夫がなくなると、買物にもこまるようになった。友人から夜間中学のことをきき、2012年に夜間中学に入学した。当時日本語でかけたのは住所と名前だけだったが、夜間中学を卒業し、2021年4月から定時制高校にかよっている。

○N.K. 女性 66歳 中国残留孤児だった母が日本に帰国し、N.K.さんも1992年夫と二人の子どもと一緒に中国黒竜江省から母のいる長崎に帰国した。23年前家族全員大阪にひっこした。日本語はまったくわからずつらいおもいをかさねた。定年まではたらきつづけた。その後友人から夜間中学を紹介され、入学した。

1.3.3 ニューカマー

○S.C.さん 女性 22歳 ネパールの山のふもとにあるちいさな村で祖父母や親族が一緒にくらす大家族の中でそだった。S.C.さんは学校にいきたかったが、「女の子に教育の必要はない」という親族の反対によりいけなかった。その時、出かせぎでインドにいた父親がインドの女性が社会で活躍する姿に衝撃をうけ、親族の反対をおしきり、S.C.さんを学校にいかせるようにした。また、11歳の時親族が彼女の結婚をきめたが、父親が結婚に大反対した。その頃父親は日本でインド・ネパール料理店を経営しており、S.C.さんを日本によびよせた。日本にきたS.C.さんはことばもわからず、将来がどうなるか不安な日々をおくっていた。その頃、料理店の常連客が夜間中学のことをおしえてくれ、入学した。

○H.N.さん 男性 アフガニスタンでは長らく紛争がつづき、H.N.さんが物心ついたときには、日常生活の中に爆撃音がいりこんでいた。「家からでたら、かえってこられるかわからない。」街で銃

弾にたおれた人を数おおく目にした。父方のおじも犠牲になったという。「学校はすきでした。エンジニアなりたかった。でも危険で、かよえたのは小学校まで」とH.N.さんはふりかえる。20歳をすぎたころ、勉強もできず、仕事もないアフガニスタンからドバイにむかった。車関係の職につき、母国にのこる家族の生活をささえた。そして、日本ではたらくことをすすめられ、2016年夏に来日した。日本語はまったくわからなかったが、積極的にはなしかけ、質問し、ある程度の会話はできるようになった。しかし、書類の提出をもとめられることもあり、よみかきできる必要があった。役所に相談すると夜間中学のことをおしえてくれ、2019年に夜間中学に入学した。

○P.B.さん 男性 17歳 ネパール人のP.B.さんは家族とくらすために15歳で来日し、昼の中学校にかよったが、日本語がわからないため級友と会話ができず、学校になじめなかった。教室で存在しないようにあつかわれた状況を「みえない檻にはいつている」とたとえた外国人生徒もいる。2018年夜間中学に入学した。まず日本語学級にはいり、ゼロレベルから日本語をまなび、現在は通常学級にかよう。

○H.A.F.さん 女性 52歳 フィリピン人のH.A.F.さんは2014年4月から夜間中学にかよう。仕事や結婚のために2度にわたって来日、日本でのくらしは20年以上になる。日本に生まれそだった子どもたちは日本語が一番得意だが、H.A.F.さんが自然に口にするのはタガログ語や英語。H.A.F.さんは子どもとなかなか会話ができず、子どものために日本語がうまくなりたかった。また、仕事でも日本語ができないため差別があった。友人から夜間中学のことをきき、入学をきめた。

この項の1.3.1.在日韓国・朝鮮、1.3.2.中国帰国者の夜間中学入学理由と1.1.の義務教育未修了者の理由はかさなるところがおおい。いずれも戦争・貧困・差別が就学の機会をうしなわせている。また、韓国K.S.さん、ネパールS.C.さんは、女子に教育は必要ないということで義務教育をうけられなかったり、未修了でおわったりしている。日本でも「お前にははたらいてもらわんと生活ができん。女は勉強しなくていい」いわれたひとがいる。そのひとは『『学校にいきたい』』といっはいけないとわかった』とのべている。

2. その他

○山本栄子さん 女性 88歳 被差別部落にうまれる。国民学校での教科書は有償でもつことができず、また、先生やクラスメートからひどい差別をうけ、文字をおぼえられなかった。国民学校を卒業した12歳から工場ではたらき、結婚、出産した。解放運動にであい、解放同盟中央執行委員長から文字をまなぶ。定年退職をまって、夜間中学に入学する。卒業後、定時制高校に進学する。つづいて、69歳で大学の社会人テストに合格し入学する。現在も解放運動をつづけている（山本2012）。

○粕谷房男さん 男性 82歳 粕谷さんには障害があり、車椅子で生活している。子どもの時、当時あった就学免除の制度を適用させられて学校にいけなかった。施設にはいつて36年間くらした。49歳の時、施設をでて自立をはじめ。夜間中学にかよおうとしたが、車椅子なので自力で2階の教室にいけないといわれ、入学をことわられた。自身でビラをつくってまき、教室と一緒にいつてくれるヘルパーをみつけ、学校にかよった（夜間中学と教育を語る会 2018・2021）。

第二部

1. ニューカマーの入学増加

近年、第一部でのべた外国につながるひと、特にニューカマーの夜間中学入学がふえている。現在、夜間中学にかよう日本国籍を有しない生徒は全体の8割をしめる。なかには、在籍者の9割をこす学校もある（産経新聞大阪本社 2023）。本稿では、ニューカマーの日本語教育について論ずる。生徒の出身国は中国、ネパール、韓国・朝鮮、フィリピン、ベトナム、タイ、ブラジル、パキスタン、アフガニスタン、ペルー、インド、シリア、その他となっており、多様である。また、年齢は16-19歳とわかひひとが一番おおい。日本国籍を有しない生徒（＝ニューカマー）の入学理由で、一番おおいのは、「日本語がはなせるようになるため」である（文部科学省 2019）。在日・韓国のひとは、はなせるのははなせるのだが、よみかきに不自由しているので、漢字を勉強したいという理由がおおい。

しかし、ニューカマーの増加はいちじるしいが、実はやめていく生徒もおおいのである。

なぜやめていくのか。それは日本語がはなせるようになったからという理由と日本語がなかなかはなせないからという正反対の理由がかんがえられるのではないだろうか。日本語がはなせるのは夜間中学にかよっているからというより、学校以外の場所（仕事先）などで日本語になれてきたからではなからうか。他方、日本語がなかなかはなせないのは、本人の努力がたりないと断じる前に、夜間中学の授業にも問題があるのではなからうかとかんがえる。このことは、筆者は東京都区内、関東地域、関西地域にある夜間中学の見学の機会にめぐまれて、実際の授業をみて感じたことである。夜間中学では日本語をはなせるだけでなく、日本語のよむ・かく・きく・はなすの四技能を習得し、教科学習をふかめていくことが必須であろう。いずれにせよ日本語をどうおしえるかが重要になってくる。筆者は日本語教師であり、日本語教育の観点から夜間中学のニューカマーに対する日本語の授業について、論じたいとおもう。

2. 夜間中学における日本語の授業の実情

以下は、筆者が夜間中学の授業見学について、観察できたことである。

- (1) 教員1人と生徒複数人が対面式に着席している。小中高と日本人のほとんどが経験してきた教室でのすわり方である。したがって、教員からはおそわるだけとなり、生徒同士がおしえあったり、知恵をだしあったりという生徒相互のまなびあいがうまれない。教師も全部の生徒を掌握できない。
- (2) 1人または2人に教員（＝その時間手すきの教師）がついて、1対1の授業をおこなう。(1)と同様生徒同士のまなびあいがうまれない。
- (3) ある教室では、教員が日本語能力のたかい生徒とだけ会話していた。日本語能力のたかい生徒に同国出身の日本語能力がまだ身につけていない生徒に通訳させていた。日本語能力がまだ身につけていない生徒は教師をみないで、能力のたかい生徒ばかりをみることになる。したがって、授業で「今」何がおこなわれているか把握できない。
- (4) 母語通訳確保のための予算がある場合、生徒のとなりに母語通訳者がつき、授業中ずっと通訳をする。
これも生徒は教師をみないで、通訳者ばかりをみることになる。生徒は授業で「今」何がおこなわれているか把握できない。

- (5) 漢字の導入がない。漢字指導は漢字のドリルのようなもので漢字をひたすらかいておぼえさせるやり方である。せっかく日本語の授業時間なのに教師と生徒の日本語のやりとりがない。
- (6) 教案などの授業準備、授業記録のつみあげがあるのか疑問におもえる授業がほとんどであった。
- (7) 教員の発話にやさしい日本語を使用する姿勢があまり感じられなく、既習の語彙・文型だけで指示や説明をしようとしていなかったようにみうけられた。

3. 夜間中学日本語教育担当教員のうれい

日本語の授業は日本語教育をしらない教師が担当していることがほとんどである。一方、日本語教育の専門家が担当している場合、その専門家は教諭ではない場合がほとんどである。日本語科目は夜間中学の教育をになう大事な科目である。日本語教育が専門でかつ教諭であることが必須ではないだろうか。

夜間中学の中には、日本語学級というクラスを設置し、日本語を集中してまなんでいるところもある。また、授業開始前に、0 時間目をもうけて、外部の日本語教育専門家が教えてくれている学校もある。その際、夜間中学の教員も授業にはいり、専門家のおしえ方を勉強しているところもある。

しかし、おおくの学校は日本語教育が専門ではない「教諭」が日本語をおしえている。ある教諭は「体系だてたおしえ方はできていないと自覚している。正直、何とかしのいでいるという感じである」とうちあけている（産経新聞大阪本社 2023）。おなじくある教頭も「先生たちは教科指導のプロではあるが、日本語指導はいわば素人。それぞれが工夫しながら独自の教材をつくり、手さぐりでおしえているのが実情で、限界がある」といっている（産経新聞大阪本社 2023）。このような先生方のなやみにこたえようと、文部科学省は 2018 年、2019 年、夜間中学における日本語指導研修会を開催している（文部科学省 2019b）。

4. それではどうしたらよいか-徳島県立しらさぎ中学校の例

最も適切なのは、小中校で「日本語」科目を専門におしえる教諭をそだてることだとかんがえる。「日本語」科目で免許をだすようになるには時間がかかるであろう。それまで、何もしないでまっていることはできない。ひとつの取組として徳島県立しらさぎ中学校の例をあげたい。

徳島県立しらさぎ中学校は 2021 年度開校、全国初の県立夜間中学校である。校名を公募したり、校歌を県出身の音楽家に依頼したりして、地域の人々にひろくしてもらおうようなこころみをした。

- (1) 日本語担当には、英語科教諭の 0 先生をあてた。
- (2) 0 先生は海外の日本人学校でおしえた経験がある。
- (3) 小学 6 年の外国語活動を担当したこともある。
- (4) 2021 年度開校にむけて、2020 年度籍は中学におき、県総合教育センターの長期研究員として調査研究に従事し、準備をした。
- (5) 鳴門教育大で週 1 回日本語教育の講義を受講した。

JTM とくしま日本語ネットワーク（＝日本語教師とそれをめざすひとの市民グループ）の日本語指導勉強会

に参加し、初級前半の模擬授業を担当した。初級前半修了後、日本語教師部のブラッシュアップ講座を受講した。JTM は 2023 年に設立 25 周年をむかえた。これまでにたくさんの日本語教師を育成し、日本語教室を展開してきたグループである。行政と連携して活動をつづけている。

(6) O先生は夜間中学開校後も受講を継続し勉強をつづけている。

筆者が注目したいのは、O先生が初級前半の模擬授業を担当して、勉強したことである。日本語教育では初級、それも前半をおしえるのが一番困難である。やさしい日本語、つまり生徒がならった語彙と文型だけで授業を進行させなければならない。教案をつくる、教材・教具の準備をする、教案の検討をする、実際に授業をおこなう、日本語教育の経験豊富なJTM会員が模擬授業の学習者役になり授業をうける、模擬授業の後は学習者役のJTM会員が教案をみながら授業の講評をおこなう、教案をかきなおし、よりよい授業をかんがえるという一連の作業を何回もくりかえす。これらの実習をきちんとおこなうのが一番教師力をやしなうこととなる。夜間中学で日本語をおしえる先生には、ぜひ実習を経験してもらいたいとおもう。また、日本語担当者だけでなく、教科担当の教員もぜひ日本語の模擬授業を経験してもらいたい。日本語教育の講義をきくより、効果的である。

5. 日本語指導の専門性

4.のO先生の日本語指導者としての準備・学習からいえることは、日本語指導者は講師ではなく、教諭であることがのぞまれる。身分の保障が必要である。どういう教諭がのぞまれるかという点、

- (1) 日本語の授業の実習経験をつみ、日本語教育の専門家として授業を担当する。
- (2) 海外経験がある。
- (3) 英語科担当者がのぞましい。
- (4) 県知事のリーダーシップ、教育長の協力、校長の裁量をもって、地域の日本語教育機関と連携し、日本語指導力をつちかう。かならず教育実習をおこなう。

6. 最後に

夜間中学の日本語教育を改善するのは喫緊の課題である。それにもまして、国がなすべき重要なことは、海外から来日したひとに対して、年齢や背景のちがいににかかわらず、日本語の基礎力を身につける教育機関を設立し、責任をもって教育することではないだろうか。夜間中学に日本語教育をおしつけることはできないとおもう。

参考文献

- 江口怜 (2022) 『戦後日本の夜間中学-周縁の義務教育史』
- 奥元さえ美 (2020) 「夜間中学および夜間中学における日本語教育の現状と課題に関する考察」
流通経済大学学術情報リポジトリ
- 高知市立長浜小学校「教科書無償運動」<https://nagahama-e.kochicity.jp/> (2024年2月29日)
- 静岡県人権・地域改善推進会 (2019) 『しずおか、人権の時代-つなぐ、つながる力』
- 産経新聞大阪本社 夜間中学取材班 (2023) 『夜間中学はいま「こんばんは」からはじまる中学校があります』
- 土屋千尋 (2017) 「夜間中学と義務教育機会確保法」『日本語教育連絡会議論文集 Vol.30』 pp.87-97
- 土屋千尋・土屋順一 (2018) 「「義務教育機会確保法」成立後の夜間中学をめぐる状況」『日本語教育連絡会議論文集 Vol.31』 pp.14-21
- 文部科学省 (2019a) 「夜間中学の必要性和文部科学省における取組について」

https://www.mext.go.jp/content/20210216-mxt_syoto02-000012914_2.pdf (2024年2月29日)
文部科学省(2019b)「令和元年度夜間中学における日本語指導研修会の開催について(報告)」
https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/yakan/1420814.htm (2024年2月29日)
文部科学省初等中等教育局(2022)「夜間中学設置・充実に向けた取組の一層の推進について(依頼)」
https://www.mext.go.jp/b_menu/hakusho/nc/mext_00049.html (2024年2月29日)
文部科学省(2023a)「令和4年度 児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査結果及びこれを踏まえた緊急対策等について(通知)」
https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/seitoshidou/1422178_00004.htm (2024年2月29日)
文部科学省(2023b)「夜間中学の設置・充実に向けた取組の一層の推進について(依頼)」
https://www.mext.go.jp/b_menu/hakusho/nc/mext_00078.html (2024年2月29日)
夜間中学校と教育を語る会(2018)・(2021)『花咲け出愛スピーチ大会 2018 記録集』・『スピーチ大会 2021 記録集』
山本栄子(2012)『歩—識字を求め、部落差別と闘いつづける』